

## 主要登場人物

ラインハルト・フォン・ミューゼル／ローエンゲラム

(Reinhard von Musel / Rothenramm)

金髪と蒼氷色の瞳を持つ貴公子。戦争の天才。銀河英雄伝説の主人公の一人。

ジークフリート・キルヒアイス

(Siegfried Kirchs)

ラインハルトの腹心であり親友。ルビーを溶かして染めたような赤毛と感のいい青い目の長身の若者。

アンネローゼ・フォン・グリュネワルト

(Annerose Graffin von Grunewald)

ラインハルトの姉。一五歳の時、時の皇帝フリードリヒ四世の後宮に納められ、グリュネワルト伯爵夫人となる。

フリーゲル男爵

(Baron von Flegel)

ブラウンシュヴァイク公の甥。ラインハルトより五歳年長。本編の時期には二丁二五歳で少将。ラインハルトを極度に嫌っている。敵役としての毒の強さは、伯父のブラウンシュヴァイク公以上なところがある。ただ、この人物もフルネームをもらえていない。ゆえに通称、『毒キノコ野郎』、あるいは『生意気なマッシュルームヘッドの獲手』(笑)。

フリードリヒ四世

(Friedrich)

銀河帝国第三六代の皇帝。アンネローゼを後宮に入れる。まだ老人と呼ばれるべき年齢でないにもかかわらず、極めて困憊した老人の外見を持つ。本当に暗愚だったのか、賢帝になり得たけれども現状を諦観して無能皇帝の外見を決め込んだのか、ちょっと分からないところのある皇帝。ただ、ラインハルトの登壇に、この皇帝がある程度以上の働きをしたことは確かだと思われる。

グリンメルスハウゼン子爵

(Richard von Grimmelshausen)

原作外伝 で登場した老提督で、ヴァンフリート会戦でラインハルトの上官となった居眠り提督。あるいはひなたぼっこ提督。原作では死去とは書かれていないが、多分、外伝 の終わった辺りで亡くなったのだろう。結構、面白い爺さまだったし、生きていてくれれば、色々と働いてくれたと思うんですけど。

ブラウンシュヴァイク公

(Otto von Braunschweig)

帝国最大の門閥貴族。フリードリヒ四世の女婿として権力を揮う。銀英伝前半最大の敵役のはずなんだが、影の薄い風船みたいな人物。こんな当主を戴いてブラウンシュヴァイク公家が帝国最大の貴族。しかも、帝国政府に匹敵するくらい経済力を維持していたなど信じがたい所がある。

リッテンハイム侯爵

(Wilhelm von Littenheim)

帝国最大の門閥貴族。フリードリヒ四世の女婿としてブラウンシュヴァイク公に並び立つ存在。人物に関する

感想は、ブラウンシュヴァイク公と同じ。

リッテンライデ侯

(Klaus von Lichtenlade)

老巧な宮廷政治家。國務尚書として、閣僚の首座を務める。険しい表情の老人。この人も有力貴族の出身だと思うが、経歴だけを見ると官僚出身者と受け取れないこともない。ある程度の門地を持った貴族出身で、上級官僚の道を歩いた人なんだろう。ただし、ベネミュンデ伯爵夫人にはけっこうひどい言われようをしているから、頑張って上に阿っていた時期もあったのだろう。

アンスバッハ

(Ansbach)

重要な役割を担った割に、フルネームももらえていない可哀相な人物。原作では准将の地位を持った軍人らしく書かれているが、ここではブラウンシュヴァイク公の家宰のような役割を持った人物として扱った。当主を支える上で、相当以上に賢明な人物が必要と考え、彼のような人間がブラウンシュヴァイク公家の内政を支配していたとしか考えにくい。

## 本編オリジナルキャラクター紹介

『星を仰ぐもの』で登場した。

### ヴィンフリート・フォン・リーフェンシュタル

(Winfried von Riefenthal)



帝国軍少将。育ちのいい貴族の坊ちゃん。雰囲気の良い青年。登坂・クレメンツ・フォン・シュミット・パウアーの士官学校時代の同期生で、優等

生。コルネリア・ゲルトルーデよりも九歳年上。ブラウンシュヴァイク公に連なるリーフェンシュタル伯爵家の三男。同盟領ヴァンフリートの前進基地に赴任し、三年間、基地を守り抜いたというが隠れていることに成功した。同盟軍に発見された後、約半年間同盟軍の攻撃に耐え抜き、ラインハルトたちに救出される。

### ヨハン・クレメンツ・フォン・シュミットパウアー

1

(Johan Klementz von Schmittbauer)



帝国軍准将。故人。コルネリア・ゲルトルーデの兄。コルネリア・ゲルトルーデよりも九歳年上。シュミットパウアー男爵家の長男。一時期ラインハルトの指揮下に入り、

ヴィンフリートを同盟領から救出する作戦に従事。ラインハルトの危急を救ったこともある。ラインハルトの野心を見抜き、暗殺を試みたが、キルヒアイスに阻止され、射殺された。

### コルネリア・ゲルトルーデ・フォン・シュミットパウアー

パウアー

(Cornelia)

Gertrude von



(Cornelia)

ヨハン・クレメンツの妹。ヴィンフリートの婚約者。兄を嗣ぎ、シュミットパウアー男爵家の当主としてシュミットパウアー男爵夫人を名乗る。愛称はゲルタ。アンネローゼと同じ年。エルフを思わせる端正な細面。赤みの強い金茶色の巻き毛。エメラルド・グリーンの瞳。誇り高い意思的な容貌。兄譲りの長身の女性。外見に似ず、白兵戦の達人。

### マクシミリアン・ホフマン

(Maximilian Hoffmann)

ブラウンシュヴァイク公家のアンスパッハに対応するリッテンハイム侯家の人物。通称、マックス・ホフマン。元帝国軍准将だが、軍に見切りをつけてリッテンハイム侯家の家宰となる道を選ぶ。彼の採用後、リッ

テンハイム侯家の勢威が大きく騰がったと言われる。

### ロベルト・クルツバッハ

(Robert Kurtzbach)

ブラウンシュヴァイク公軍中佐。あだなが「シュペーゲル」。正規軍では士官になれなかったためにブラウンシュヴァイク公の私兵に投じ、公軍の重鎮となっている。ヴィンフリートの参謀長としてヴァンフリート星系へ赴いたこともある。